



野田小だより

学校教育目標

活力にあふれた学校

●がんばる子

●やさしい子

●学びつづける子



あま だ うが
雨垂れ 石を穿つ

平成29年8月29日
校長 小林 達哉

39日間の夏休みが終わり、1年の中でも最も長い116日間の2学期が始まりました。

幸い休み中に大きな事件事故もなく、一回り大きく成長した子どもたちの歓声と笑顔が学校に戻ってきました。夏休み中、閑散としていた学校が息を吹き返したようです。

さて、2学期は、全校稲刈り、運動会、各学年の校外学習、校内音楽会等大きな行事が目白押しです。それらの行事に向かって、どの子も自分のめあてをもち、集団で取り組むことの楽しさを味わってほしいと思います。

私事で恐縮ですが、私は、夏休み中に福島県の「塔のへつり」と「あぶくま洞」に行ってきました。



塔のへつり

「塔のへつり」は、南会津郡下郷町にあり、百万年という気の遠くなるような歳月をかけ、浸食と風化を繰り返してきた柱状の断崖です。一帯は、第三系凝灰岩、凝灰角礫岩、頁岩などが互い違いになっており、それぞれの浸食の度合いが異なることから、独特の景観を生み出したそうです。その特異な形から、1943年に国の天然記念物に指定されました。



あぶくま洞

「あぶくま洞」は、福島県田村市滝根町にあり、石灰岩の割れ目に沿って流れ込んだ沢の水が、約八千万年の年月をかけて作り出した洞穴です。観光化されているのは約600mですが、その奥には2,500m以上の洞穴が広がっているそうです。この洞穴には、石灰岩が水に溶かされ洞穴内で再び結晶し長い長い年月をかけ作られた、つらら石、洞穴さんご、石筍、石柱などの鍾乳石があります。

この二つの名所に共通しているのは、こつこつと長い年月をかけ、着実に変化したり、新しいものを生み出したりしていることです。

「雨垂れ 石を穿つ」と言う言葉がありますが、これは、軒先から滴る雨の粒も、長い間には、硬い石にさえ穴をあけることができるように、たとえ十分な実力がなくても、根気よく繰り返し続ければ、最後には成功に至るといことです。

大きな行事が続く2学期ですが、子どもたちが、浮足立つことなく、成功や達成のために、日々の努力を着実に積み重ねていけるよう、教職員一同、力を合わせて取り組んでまいりますので、保護者や地域の皆様のご理解、ご協力を2学期もどうぞよろしくお願い申し上げます。